

# 北海道における良好な景観が地域にもたらす効果に関する調査

A Study on benefits delivered from fine landscapes and scenery in Hokkaido

(独)土木研究所 寒地土木研究所 地域景観ユニット ○正 員 笠間聡 (Satoshi Kasama)  
 同上 正 員 松田泰明 (Yasuaki Matsuda)  
 同上 太田広 (Hiroshi Ota)

## 1. はじめに

2004年の景観法において、良好な景観の形成に関する国、地方公共団体、事業者および住民、それぞれの責務が規定されたように、景観への配慮はすべての国民にとっての必須事項となっている。

一方で、国や地方公共団体等が事業を実施する際には、その根拠の明確な説明が求められる。景観への投資も同様であるが、これに対応するための知見は十分でない。

国土交通省では、「美しい国づくり政策大綱」で美しい国づくりのための具体的施策のひとつとして掲げられた「公共事業における景観アセスメント(景観評価)システムの確立」に対応するものとして、2007年に「国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針(案)」

(2009年改正)、2009年に「公共事業における景観整備に関する事後評価の手引き(案)」を定めている。

しかしながら、これらは、「景観への配慮が十分であるか、十分であったか」を判断・評価するためには非常に有意義と考えられるものの、景観への配慮が必要十分であったか、つまり、費用対効果の面も含め景観への投資が適当であったかの判断・評価するためのツールとはなっていない。

また、市街地の景観を対象とした事例調査から導き出されたもので、北海道に特徴的な自然景観や農村景観が、地域にもたらす効果やその価値の評価に対応するものとはなっていない。

これらの課題に対応するため、独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所 地域景観ユニットでは、景観の効果を適切に評価し、説明することを可能とするための研究に取り組んでいる。

本論文では、景観形成が地域にもたらす効果の範囲あるいは項目を把握するための調査・分析の結果について述べる。

## 2. 景観形成の効果に関する既往の研究等

景観研究の分野における公共事業による景観整備効果に関する研究等としては、個別の事業のケーススタディによって景観整備効果の把握を試みた、安仁屋ら<sup>1)</sup>、後藤ら<sup>2)</sup>、福井ら<sup>3)</sup>、あるいは川島ら<sup>4)</sup>のものがあるが、これらの成果は、土木学会景観・デザイン委員会が国土技術政策総合研究所美しい国土の創造WGの協力を得て立ち上げた「景観評価研究会」や、平成18年度土木学会全国大会の研究討論会「公共事業の景観評価を考える」<sup>5)</sup>、前述の「事後評価の手引き(案)」の作成にあたって組織された「公共事業の景観整備効果に関する

アドバイザー会議」を経て、事後評価の手引き(案)に集約されていると考えられる。

この事後評価の手引き(案)においては、6分類25項目の良好な景観がもたらす「効果例」が示されている(表-1)。

しかし、あくまで効果"例"とされているほか、「本手引き(案)では、周辺に人が住み、あるいは日常的に利用されるような施設に関する事業(道路・街路・河川・港湾・公園等)を調査対象として想定している。」「周辺に住まう人がほとんどいないような施設に関する事業(自然環境の中の道路や砂防施設等)の景観向上効果については、本章以降の記述によらず、」と書かれているように、これらの効果項目は精査・拡充が必要なものとなっている。

表-1 事後評価の手引き(案)による、景観整備効果の分類と効果例

分 類	効 果 例
<b>景観整備による効果</b>	
整備された空間に対する認知・印象	・整備した空間の機能向上に対する認知 ・整備した空間の印象の向上 等
意識に与える効果	・親しみ・愛着、誇りの向上/その他 ・地域のシンボル・ランドマークとしての認知、地域らしさの認知 ・景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり (住民、事業担当者) ・住民、行政、設計者、施工者の信頼関係の構築 等
活動に与える効果	・利用の増加 ・利用の多様化 ・コミュニティの形成 等
団体の活動、維持管理活動に与える効果	・イベントの開催 ・維持管理活動の実施 ・地域活動団体の活動の発展 等
<b>景観整備による波及効果</b>	
周辺の空間に与える効果	・隣接する空間整備に与える効果 ・建物形態、ファサード、意匠等の変化 ・建築外構の変化 ・公共空間整備の拡張 等
周辺の空間に与える効果	・周辺施設整備との連携 ・視点場の形成 等
良好な景観形成に寄与	・景観条例、景観計画等の策定 ・景観形成に関する協議会の設置 等
地域経済に与える効果	・地場産業の活性化 ・観光振興 ・民間投資の誘発 等
外部評価の高まり	・外部機関(専門家)からの表彰 ・マスコミ・マスメディア掲載の増加 ・地価の上昇、居住者の増加 等

## 3. 本調査の目的、方法等

### 3.1 調査の目的

北海道に特徴的な自然景観や農村景観が、地域にもたらす効果やその価値の評価手法について検討する際の基礎資料とするため、効果の項目の候補を既存資料から抽出して整理することを目的とした。

### 3.2 研究の方法

基礎自治体である各市町村の定める、総合計画(平成23年5月2日改正前の地方自治法第2条第4項に基づ

く基本構想等を想定する)、その他のまちづくりに関する総合的な計画、戦略、構想等から、「景観」に関する記述を抽出する。

それらの記述から、地域の良好な景観(風景)を構成している要素と、それらの景観(風景)が及ぼす効果や貢献について整理する。

結果を一覧表と、各市町村ごとにネットワーク図に取りまとめ、景観が地域にもたらす効果や、景観を構成する要素について考察を行った。

### 3.3 調査の対象

3.2の調査対象とした自治体は、道内179市町村中の144町村のうち、総合計画等を各市町村のウェブページ上で公開している114町村のうち、pdfやhtmlのデータがテキスト検索できる形式となっているもの、83町村を対象とした。

## 4. 調査結果

### 4.1 抽出されたキーワード・記述

前述のとおり、道内83市町村の総合計画などについて、「景観」に類するキーワード(景観、風景、景色、景勝の4語)による全文検索を行い、前後の記述内容から、景観が地域に及ぼすと期待されている効果に関する事項や、それらの景観に対する評価・位置づけ等を抽出

し、結果を一覧表に整理した(表-2)。

- ・調査対象87町村のうち、総合計画等の中に「景観」に類するキーワードが無いものは、6町村であった。
- ・地域の景観の特性や、景観を構成する要素について分析や記述があるものは、19町村であった。これらの町村は、特に景観に対する取組みの意欲が高いものと考えられる。
- ・景観が地域に及ぼすと期待されている効果については、大きく8項目が抽出され、最も記述されているケースが多いのは「観光」の促進で、次いで「地域のイメージ・魅力」の向上・確立であった。
- ・北海道に特徴的な「農業景観」に関する言及があるものは16町村であった。
- ・地域の景観を「地域資源」「財産」などと位置づけているものは3町村で、「後世に継承すべきもの」としているものは6町村あった。

#### (1) 抽出例：美瑛町

地域の良好な景観が、地域の魅力向上やイメージの向上・確立に寄与し(美瑛町の例では『丘のまちびえい』というブランド)、それを通じた、観光集客や移住促進等に効果が期待できるとした町村の例である(図-1)。

表-2 道内83町村の総合計画等から抽出された効果項目等に関する記述の集計

総合振興局・振興局	総町村数	調査対象町村数	「景観」等のキーワードの記載		地域の景観特性に関する分析・記述	景観が地域に及ぼすと期待される効果に関する記述								その他の記述		
			無	有		観光・交流	日常生活環境	移住・居住/ネオツーリス	地域のイメージ・魅力	地域住民等の誇り	農産物・地域ブランド	産業・地域ブランド	地域活性化・まちづくり	農業景観	地域資源・財産	後世に継承すべきもの
1 空知	14	7		7		1	1		1					2		
2 石狩	2	1		1										1		
3 後志	19	13	1	12	1	3	1	1	3	1	1	1		3	1	
4 胆振	7	5		5		3		1	2	1			1	2		
5 日高	7	4	1	3					1			1				1
6 渡島	9	6	1	5	3	4	1	1	2	1					1	3
7 檜山	7	2		2	1	2				1			1			
8 上川	19	9	1	8	4	3	3	2	1	1	2	2				2
9 留萌	7	7		7	2	1	1		1	2						
10 宗谷	9	4		4	1	2				1						
11 オホーツク	15	7	1	6		2								1		
12 十勝	18	9		9	2		1							3		
13 釧路	7	6	1	5	3	2			1	1				2		
14 根室	4	3		3	2	1					1			2	1	
計	144	83	6	77	19	24	8	5	13	8	4	4	2	16	3	6

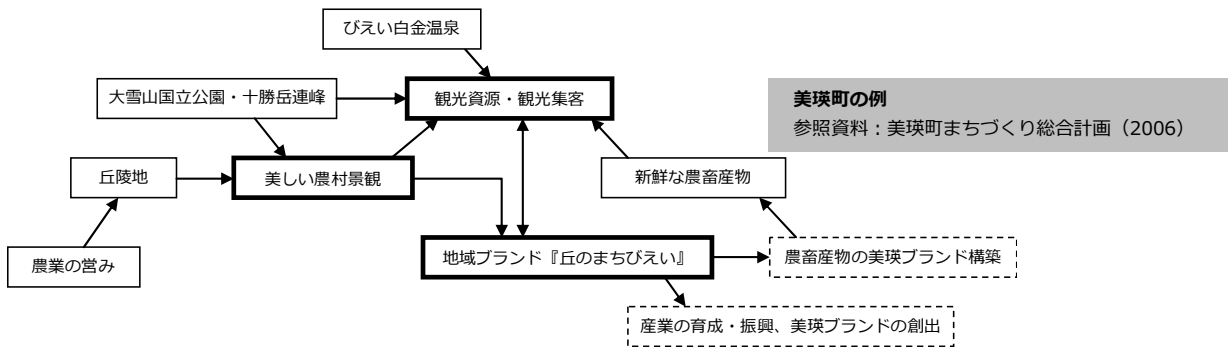


図-1 景観がもたらす効果・貢献およびそれらを構成する要素に関するネットワーク図(美瑛町の例)

(2) 抽出例：ニセコ町

山や川などの豊かな自然環境・景観と、農業の継続的な営みによる農村景観が相まって、観光集客などに寄与するとした町村の例である (図-2)。

農業景観に関する記述のある 16 町村のうちの多くが、このタイプに分類できる。

(3) 抽出例：黒松内町

魅力ある農村景観が、居住空間/環境の魅力向上をも

たらし、それが新規居住者の獲得などの効果をもたらすとした町村の例である (図-3)。

(4) 抽出例：別海町

良好な農村景観の形成が、生産拠点としての地域のイメージを高め、農畜産物の価値の向上 (ブランド化) に寄与するとした町村の例である (図-4)。

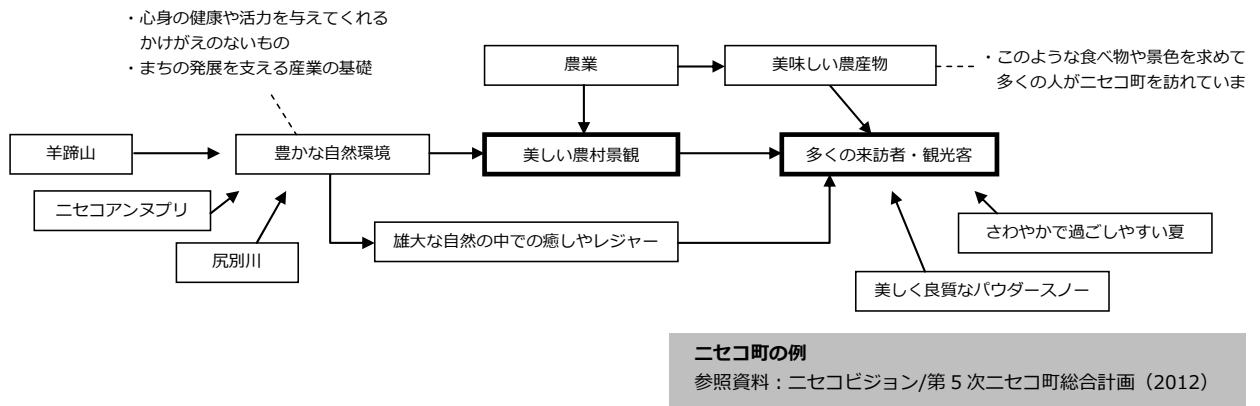


図-2 景観がもたらす効果・貢献およびそれらを構成する要素に関するネットワーク図 (ニセコ町の例)

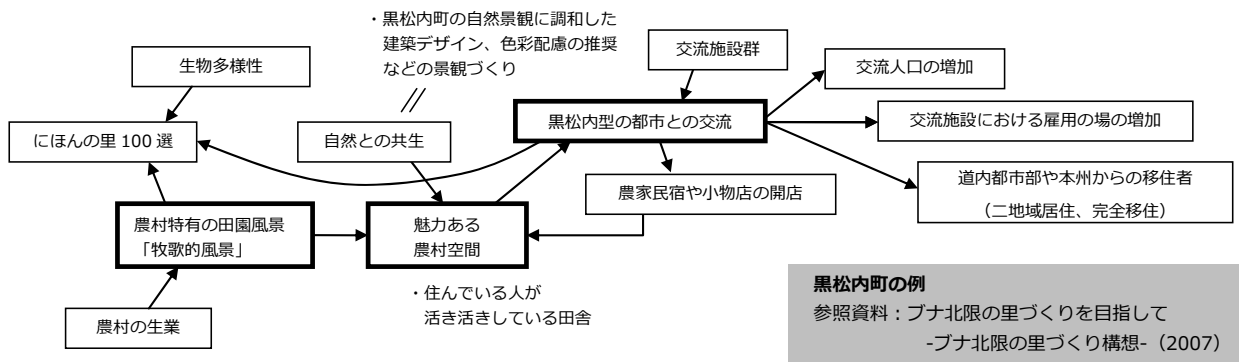


図-3 景観がもたらす効果・貢献およびそれらを構成する要素に関するネットワーク図 (黒松内町の例)

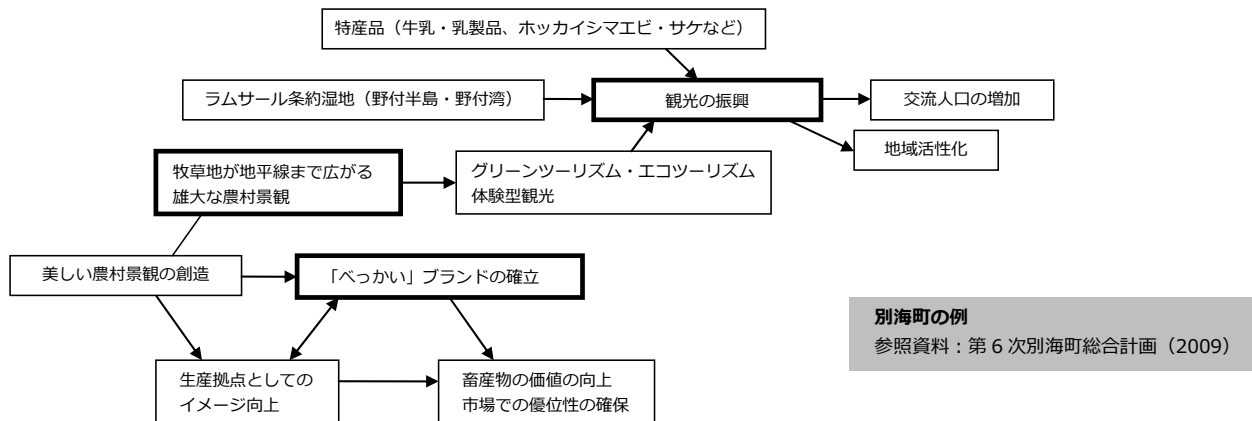


図-4 景観がもたらす効果・貢献およびそれらを構成する要素に関するネットワーク図 (別海町の例)

## 5. まとめ

道内 83 町村の総合計画等の記述から、北海道の良好な景観が地域にもたらしている効果を抽出し、整理を行った。

ネットワーク図を用いて、良好な景観が地域にもたらす効果の波及の経緯を把握するとともに、一覧表を用いた集計を行い、自然景観・田園景観地域における良好な景観がもたらす効果について整理を行った。

今後、これらの成果をもとに、景観がもたらす効果や、その価値の評価に向けた研究に取り組んでいく計画である。

## 参考文献

- 1) 安仁屋宗太、福井恒明、篠原修：景観整備に関する事業の事後評価についての研究～浦安・境川をケーススタディとして～、景観・デザイン研究講演集 No.1, pp.73-82, 2005
- 2) 後藤祐樹、篠原修：景観整備事業に関する複合的事後評価手法の研究～津和野川をケーススタディに～、景観・デザイン研究講演集 No.2, pp137-146, 2006
- 3) 福井恒明、角真規子、鈴木洋、兼子和彦：景観整備事業の効果と評価手法に関する研究～横浜・汽道道をケーススタディとして～、景観・デザイン研究講演集 No.3, pp98-107, 2007
- 4) 福井恒明、安藤義宗、兼子和彦：利用者のコメントに基づく景観整備効果の分析、景観・デザイン研究講演集 No.2, pp147-154, 2006
- 5) 川島和彦・小島勝衛・根上彰生・宇於崎勝也：拠点景観整備事業を契機とした景観整備の波及・誘導効果に関する研究-長野県小布施町を事例として-, 第 32 回日本都市計画学会学術研究論文集, pp31-36, 1997
- 6) 土木学会 景観・デザイン委員会：平成 18 年度土木学会全国大会研究討論会「公共事業の景観評価を考える」報告書, 2007